

## 後期高齢者も10人に1人! ~増え続ける働く高齢者

先日、結婚してからずっと専業主婦をしている友人と話した折に、「50歳頃、働こうと思ってあちこちに履歴書を出したが全然ダメだった」と聞きました。15年くらい前のことですが、今なら採用されたかもしれません。実際、50歳どころか、高齢になっても働く人が増えています。

## ●労働力として期待される高齢者

9月15日に総務省統計局が公表した「統計から見た我が国の高齢者」によると、2023年の65歳以上の就業者数は20年連続で増加し、過去最多の914万人となっています。

2024年9月15日現在の総人口は1億2376万人で、2023年9月15日現在より59万人減少。しかし、65歳以上人口に関しては3625万人と2万人増え、総人口の29.3%を占めています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、今後もこの傾向が続くと予想されています。

生産年齢人口である64歳以下の割合が減る一方で、近年、日本の労働市場では人手不足が深刻化しています。それを補う労働力として、働

く時間を抑えているパートタイムの女性、外国人、リタイアした高齢者が期待されています。もはや高齢者は「ご隠居」ではなく「戦力」です。

## ●主要国でも10年前より増加

2023年の就業者総数(15歳以上)に占める65歳以上の就業者の割合は13.5%で、就業者の約7人に1人ということになります。2013年は10.1%(約10人に1人)でしたから、働く高齢者は確かに増えているようです。そういえば、スーパーやカフェなどのスタッフに、年配の人を多く見かけるようになりました。

実際にどれくらいの高齢者が働いているかですが、65歳以上の就業率(65歳以上人口に占める65歳以上の就業者の割合)は25.2%。4人に1人が働いていることとなります。2013年は20.1%(5人に1人)でした。主要国における65歳以上の就業率は、いずれも10年前と比較して上昇しているようですが(OECDの調査)、フランスの4.2%などと比べると日本の25.2%は高い水準です。ちなみに韓国は37.3%とかなり高く、

頑張る高齢者が多いようです。

## ●長寿社会を働いて有意義に

さらに65歳以上の就業率を、5歳刻みで細かく見たのが下表(参考値の60~64歳を含む)。見事な右肩上がり、いまや60代前半は4人に3人、60代後半も2人に1人は働いています。75歳以上の後期高齢者も、10人に1人が働いているようです。

「働く」ということをネガティブに捉えるなら、「イヤイヤながら家計のために」なのかもしれません。一方、ポジティブに捉えれば、なるべく長く社会とつながって生き生きと暮らすためといえるでしょう。

賃労働だけが「働く」ことではありません。趣味や地域活動、ボランティアなど、現役時代にはできなかったことに挑戦する人たちもいます。これまでは家計のために働いてきたけれど、定年後は自分のため、誰かのために「働く」という人たちです。

私も65歳以上の就業者の仲間入りをしていますが、長寿社会を最後まで有意義に送るためにも、「働く」という選択肢を活かし続けたいものです。冒頭の友人にも、「今からでも探せるはず」と伝えました。

(クルー 浅田里花)

【右肩上がりの高齢者就業率(年齢階級別)】

(%)

